
一般財団法人日本いたみ財団
定 款

第1章	総則	(P.1)
第2章	財産及び会計	(P.1)
第3章	評議員及び評議員会	(P.2)
第4章	役員及び理事会	(P.4)
第5章	定款の変更、合併、事業の譲渡、解散及び清算	(P.6)
第6章	附則	(P.7)

令和元年 12 月 17 日 作成

一般財団法人日本いたみ財団 定款

令和 元年 12 月 25 日 設立認証

第1章 総 則

(名称)

第1条 当法人は、一般財団法人日本いたみ財団と称する。

(事務所)

第2条 当法人は、主たる事務所を東京都千代田区に置き、理事会の決議をもって、必要の地に従たる事務所を設置することができる。

(目的)

第3条 当法人は、痛みまたは痛みを伴う疾患に関する研究を促し、研究者の交流をはかるとともに研究成果と知識の公表及び普及をとおして人類の健康の保持・増進に資することを目的とする。

(事業)

第4条 当法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学術集会、教育研修会、研究会の開催
- (2) 学会誌、図書等の発行
- (3) 痛みまたは痛みを伴う疾患に関する研究の奨励および調査の実施
- (4) 痛みを伴う疾患に対する治療に従事する人材の育成
- (5) 痛みに関する知識の啓発及び教育
- (6) 痛みセンターの設置及び運営
- (7) 国内外の諸団体との協力と連携
- (8) 国際協力の推進
- (9) その他当法人の目的を達成するために必要な事業

(公告)

第5条 当法人の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

第2章 財産及び会計

(財産の拠出及びその価額)

第6条 当法人の設立に際して設立者が拠出する財産及びその価額は、次のとおりである。

愛知県長久手市岩作雁又1-1 愛知医科大学学際的痛みセンター内

設立者 特定非営利活動法人いたみ医学研究情報センター

現 金 300万円

(基本財産)

第7条 前条の財産は、第4条の目的事業を行うために不可欠な基本財産とし、やむを得ない理由によりその一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ評議員会において議決に加わることのできる評議員の3分の2以上に当たる多数の承認を受けなければならない。

(事業計画及び収支予算)

第8条 当法人の事業計画書及び収支予算書については、毎事業年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の決議を受けなければならない。

2 前項の書類については、評議員会に報告するものとする。

(事業報告及び決算)

第9条 当法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 貸借対照表
- (3) 損益計算書
- (4) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類は、定時評議員会に提出し、第2号及び第3号の書類については承認を受けるものとする。

(事業年度)

第10条 当法人の事業年度は、毎年3月1日から翌年2月末日までの年1期とする。

第3章 評議員及び評議員会

第1節 評議員

(評議員)

第11条 当法人に、評議員5名以上10名以内を置く。

(選任及び解任)

第12条 評議員の選任及び解任は、評議員会において行う。

- 2 評議員は、当法人又はその子法人の理事、監事又は使用人を兼ねることができない。
- 3 評議員は、身体及び精神の痛みの専門の医療者の資格を有する者とする。

(任期)

第13条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 補欠として選任された評議員の任期は、前任者の任期の残存期間と同一とする。

(報酬等)

第14条 評議員に対して、各年度の総額が100万円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支払い基準に従って算定した額を報酬等として支給する。

2 評議員には、前項に規定する報酬等のほかに、その職務を行うために要する費用の支払いをすることができる。

第2節 評議員会

(権限)

第15条 評議員会は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般法人法」という。）に規定する事項及びこの定款に定める事項に限り決議する。

(開催)

第16条 定時評議員会は、毎事業年度終了後3箇月以内に開催し、臨時評議員会は、必要に応じて開催する。

(招集権者)

第17条 評議員会は、理事会の決議に基づき、理事長が招集する。

2 理事長に事故があるときは、あらかじめ理事会の定めた順序により他の理事が招集する。

(招集の通知)

第18条 理事長は、評議員会の開催日の5日前までに、評議員に対し、会議の日時、場所及び目的である事項を記載した書面をもって、通知を発しなければならない。

2 前項にかかわらず、評議員全員の同意があるときは、招集の手続を経ることなく、評議員会を開催することができる。

(議長)

第19条 評議員会の議長は、評議員会において、出席した評議員の中から選出する。

(決議)

第20条 評議員会の決議は、議決に加わることのできる評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 一般法人法第189条第2項の決議は、議決に加わることのできる評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

(決議の省略)

第21条 理事が評議員会の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなす。

(報告の省略)

第22条 理事が評議員の全員に対して、評議員会に報告すべき事項を通知した場合において、その事項を評議員会に報告することを要しないことについて、評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その事項の評議員会への報告があったものとみなす。

(議事録)

第23条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成する。

第4章 役員及び理事会

第1節 役員

(役員)

第24条 当法人の役員及びその定数は、次のとおりとする。

1. 理事長 1名
 2. 副理事長 2名以上3名以下
 3. 理事 3名以上8名以下（業務執行理事を含む）
 4. 監事 2名
 5. 幹事 1名
 6. アドバイザー 3名以内
- 2 理事長、副理事長は、これを業務執行理事とする。
 - 3 理事長は、当法人の事務を統括する代表理事とする。
 - 4 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があったときは理事長に代わってその職務を行う。
 - 5 理事について、当該理事及びその配偶者または三親等内の親族（これらの者に準ずるものとして当該理事と特別の関係があるとして政令で定める場合を含む。）である理事の合計数が理事の総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。
 - 6 他の同一の団体（公益法人またはこれに準ずるものとして政令で定める場合を除く。）の理事または使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係あるものとして政令で定める者である理事の合計数が理事の総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。
 - 7 幹事は、理事長を補佐し、理事長の指示を受けてその事務を処理するとともに、運営委員の職務の執行を監督する。
 - 8 アドバイザーは、必要があるときに設置され、理事が当法人の業務の執行を決定するに当たって必要な助言及び指導をする。

(選任等)

第25条 理事及び監事は、評議員会において選任する。

- 2 理事長、副理事長は、理事会の決議をもって選定及び解任する。
- 3 理事及び監事は、当法人又はその子法人の理事又は使用人を兼ねることができない。
- 4 理事は、身体及び精神の痛みの専門の医療者の資格を有する者とする。
- 5 幹事は、理事長が選任及び解任する。
- 6 アドバイザーは、理事会の決議をもって選任及び解任する。

(理事の職務権限)

第26条 理事は、理事会を構成し、この定款に定めるところにより、当法人の業務の執行を決定する。

- 2 理事長は、当法人を代表し、その業務を執行する。
- 3 理事長は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で年2回以上、一般法人法第91条第2項の業務執行状況の報告を理事会にしなければならない。

(監事の職務権限)

第27条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告書を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、当法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(任期)

- 第28条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終了の時までとする。
- 2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終了の時までとする。
 - 3 補欠として選任された役員の任期は、前任者の任期の残任期間と同一とする。
 - 4 幹事は、当該幹事を選定した理事長が退任する時に併せて退任する。
 - 5 アドバイザーの任期は、第1項に準じる。

(解任)

- 第29条 役員（ただし、幹事及びアドバイザーを除く。）が次の一に該当するときは、評議員会において解任することができる。ただし、監事を解任する場合は、議決に加わることのできる評議員の3分の2以上に当たる多数の決議に基づいて行わなければならない。
- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を懈怠したとき。
 - (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(報酬等)

- 第30条 理事及び監事の報酬、賞与その他の職務執行の対価として当法人から受ける財産上の利益は、評議員会の決議によって定める。

(取引の制限)

- 第31条 理事が次に掲げる取引をしようとする場合は、その取引について重要な事実を開示し、理事会の承認を得なければならない。
- (1) 自己又は第三者のためにする当法人の事業の部類に属する取引
 - (2) 自己又は第三者のためにする当法人との取引
 - (3) 当法人がその理事の債務を保証することその他理事以外の者との間における当法人とその理事との利益が相反する取引
- 2 前項の取引をした理事は、その取引の重要な事実を遅滞なく、理事会に報告しなければならない。

(責任の一部免除又は限定)

- 第32条 当法人は、一般法人法第198条において準用する同第114条第1項の規定により、理事又は監事の同第111条第1項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、理事会の決議によって、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として、免除することができる。
- 2 当法人は、理事会の決議によって、外部役員等（一般法人法第198条において準用する同第115条第1項の外部役員等をいう。）の前項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、賠償責任を限定する契約を締結することができる。ただし、その契約に基づく賠償責任の限度額は、前項の最低責任限度額とする。

第2節 理事会

(権限)

- 第33条 理事会は、この定款に別に定めるもののほか、次の職務を行う。

- (1) 当法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長その他の代表理事の選定及び解職
- 2 理事会は、その決議により、理事による当法人の業務の執行を補助する者として運営委員を選任することができる。
- 3 運営委員は、理事会の決議によって定められた範囲で、理事及び幹事の指揮・監督のもと、理事に代わってその職務を行う。
- 4 アドバイザーは、理事長または副理事長の求めに応じて、必要な助言及び指導をする。

(招集)

- 第34条 理事会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事長がこれを招集する。
- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、あらかじめ理事会の定めた順序により他の理事が招集する。
 - 3 前二項に定める招集権者は、理事会の日の5日前までに、各理事及び各監事に対してその通知を發して理事会を招集する。
 - 4 理事及び監事全員の同意があるときは、招集の手続を経ないで理事会を開催することができる。

(議長)

- 第35条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(決議)

- 第36条 理事会の決議は、この定款に別段の定めがあるもののほか、議決に加わることができる理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 決議について特別の利害関係を有する理事は、議決権を行使することができない。

(決議の省略)

- 第37条 理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事が異議を述べたときは、この限りでない。

(報告の省略)

- 第38条 理事又は監事が理事及び監事の全員に対して、理事会に報告すべき事項を通知した場合においては、その事項を理事会に報告することを要しない。ただし、一般法人法第197条において準用する同法第91条第2項の規定による報告については、この限りでない。

(議事録)

- 第39条 理事会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成し、出席した理事及び監事は、これに署名若しくは記名押印又は電子署名しなければならない。

(理事会規則)

- 第40条 理事会に関する事項は、法令又はこの定款に定めるもののほか、理事会において定める理事会規則による。

第5章 定款の変更、合併、事業の譲渡、解散及び清算

(定款の変更)

- 第41条 この定款は、評議員会において、議決に加わることのできる評議員の3分の2以上に当たる多数の決議によって変更することができる。
- 2 当法人の目的並びに評議員の選任及び解任の方法についても同様とする。

(合併等)

- 第42条 当法人は、評議員会において、議決に加わることのできる評議員の3分の2以上に当たる多数の決議により、他の一般法人法上の法人との合併又は事業の全部若しくは一部の譲渡をすることができる。

(解散)

- 第43条 当法人は、基本財産の滅失その他の事由による当法人の目的である事業の成功の不能その他法令に定める事由によって解散する。

(残余財産の処分等)

- 第44条 当法人が清算する場合において有する残余財産は、評議員会の決議により、当法人と類似の事業を目的とする他の公益社団法人若しくは公益財団法人、公益社団法人及び財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人、又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。
- 2 当法人は、剰余金の分配を行わない。

第6章 附則

(設立時評議員)

- 第45条 当法人の設立時評議員は、次のとおりとする。
- 竹下 克志、 山口 重樹 松原 貴子

(設立時役員)

- 第46条 当法人の設立時理事、設立時代表理事及び設立時監事は、次のとおりとする。
- 設立時理事 菊地 臣一、 小川 節郎、 田口 敏彦
設立時代表理事 菊地 臣一
設立時監事 中井 吉英

(最初の事業年度)

- 第47条 当法人の最初の事業年度は、当法人成立の日から令和2年2月28日までとする。

(設立者の氏名及び住所)

第48条 設立者の氏名及び住所は、次のとおりである。

愛知県長久手市岩作雁又1-1 愛知医科大学学際的痛みセンター内
特定非営利活動法人いたみ医学研究情報センター

(法令の準拠)

第49条 本定款に定めのない事項は、すべて一般法人法その他の法令に従う。

以上、一般財団法人日本いたみ財団の設立のため設立者設立者 特定非営利活動法人いたみ医学研究情報センターの定款作成代理人森田正敏は、電磁的記録である本定款を作成し、これに電子署名する。

令和 1 年 12月17日作成

設立者 愛知県長久手市岩作雁又1-1 愛知医科大学学際的痛みセンター内
特定非営利活動法人いたみ医学研究情報センター

上記設立者の定款作成代理人
東京都台東区上野一丁目1 4 番6 号
司法書士 森田正敏